

教えて 学んで 楽しもう

学びのトレジャー

Vol.3

2024年1月5日

思いのままに、教材研究？

北海道札幌市立真駒内中学校

伊藤 彩乃 先生

生徒の制作風景を見ていると、無性に自分の作品づくりがしたくなって、「美術」に没頭することがあります。作品づくりは人に見せるためのものになりがちですが、こういう時につくる作品はただの自己満足です。生徒が使っている素材や道具と同じものを使って、つくりたいものを好きなようにつくり始めます。ある時は、形の出来栄えにうっとりし、またある時は色彩のもたらす効果に驚き、結局は人に見せて回りたくなります。自分が制作に向かう時のこの高揚感をどの生徒にも体験してほしいと思う瞬間です。

さて、先日は3年生のパブリックアートの授業で、石紛粘土の質感に魅力を感じ、来年の干支の「龍」をつくってみることにしました。指導の経験から、粘土の扱いは分かっているつもりです。芯材をつくり、粘土で大まかな形を肉付けしていきます。「あれ、この芯材には意外と粘土が付きづらい。」「この乾き具合で動かすと、ひび割れがひどくなる。」教材研究の時に少し試ただけでは分からない細かなことが次々と見つかります。「この道具意外と便利。」「細部をつくり込む時の水の量は・・・。」自分が夢中になって制作する中で見つける発見は、授業内で生徒へのアドバイスに生かされることになります。



生徒は、つくりたいものが頭の中にあるのにどうやってもうまく表現できない時、「美術」に絶望を感じるのだと思います。「希望をもって制作に臨む」＝「思い描いたことを表現できるようになる」ためには、いかに道具、材料、環境で助け舟を出せるかが大事だと考えます。生徒が道具、材料、環境を生かすために、教師が良いタイミングで、的確なアドバイスができれば最高だと日々感じます。

生徒へのアドバイスの引き出しを増やすため、あとは、ちょっとした自分の満足のために、自分の「美術」の時間も大切にしたいなと思っています。



開隆堂